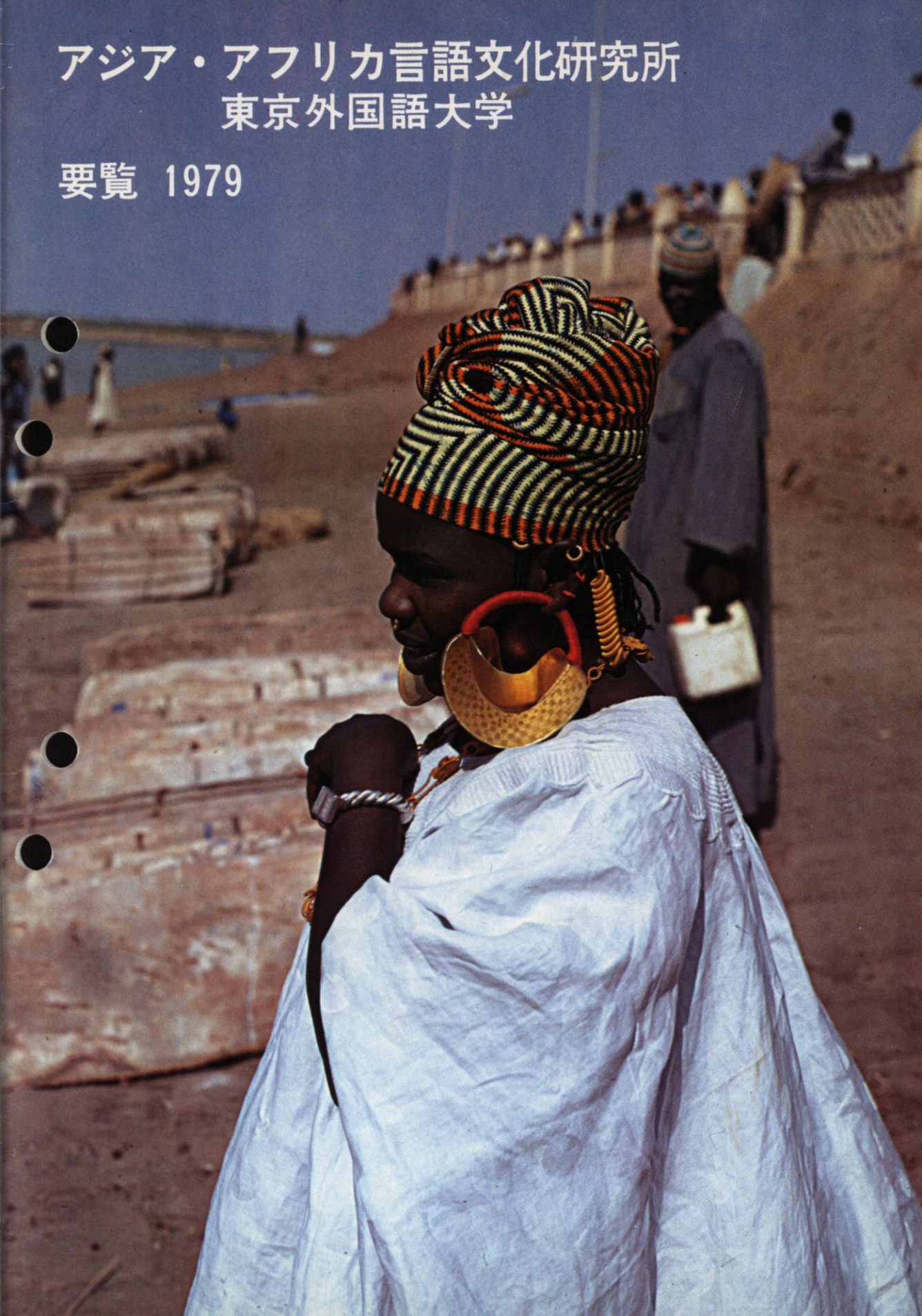
アジア・アフリカ言語文化研究所
東京外国語大学

要覧 1979



目　次

概　要

歴史と性格 …… 1

組　織 …… 2

研究活動

共同研究プロジェクト …… 4

言語情報機械処理 …… 6

言語研修 …… 7

海外学術調査 …… 8

助手等の現地投入 …… 9

外国人研究員 …… 10

施　設

図 書 室 …… 11

音声学実験室 …… 12

電算機室 …… 13

職　員 …… 14

出版物一覧 …… 16

——表紙写真説明——

西アフリカ内陸ニジェル河大湾曲部の交易都市モプティの船着場で。ソンガイ語でトロミと呼ばれる金の耳飾りをつけて渡し舟を待つ婦人。うしろに見えるのは，サハラ砂漠のタウデニで切りだされ，はるばる運ばれてきた岩塩。タウデニからトンブクトゥまでは駱駝で，トンブクトゥの外港カバラからモプティまでは舟で。ここで陸揚げされたあと，かつては驢馬の背で，いまはトラックで，岩塩はサバンナ各地の市へ運ばれる。

ニジェル河上流地方で産出する金と、サハラから運ばれてくる塩と——塩板の並ぶ河岸にたたずむ，豪奢な耳飾りの女性の姿は，かつて数百年にわたって，古ガーナ，古マリ，ソンガイの帝国の時代にこの地方に栄えた「塩金」交易の遠い面影を象徴しているかのようだ。　（川田　順造）

INSTITUTE FOR THE STUDY OF LANGUAGES
AND CULTURES OF ASIA AND AFRICA

TOKYO GAIKOKUGO DAIGAKU
4, NISHIGAHARA, KITA-KU, TOKYO 114
TEL. 03-917-6111
Cable Address : GENGOBUNKAKEN TOKYO

概　　要

歴　史　と　性　格

アジア・アフリカ言語文化研究所は，人文科学・社会科学系では，わが国ではじめての共同利用研究所です。

本研究所の目的はアジアおよびアフリカの言語文化に関する総合研究，ならびにこれらの地域における諸言語の辞典編纂，および教育訓練を行なうことにあります。

すなわち：

1）アジア・アフリカの言語，およびそれを通じて，これらの地域の歴史・社会・文化を直接研究すること。

2）それらの言語による資料の利用を容易にするための辞典を作ること。

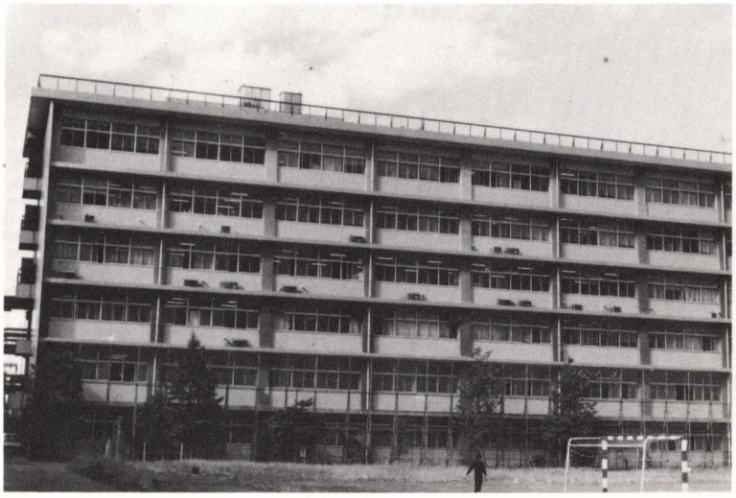
3）それらの言語習得を助けるため，言語研修を実施すること。

以上の三点が本研究所の主要な目的です。

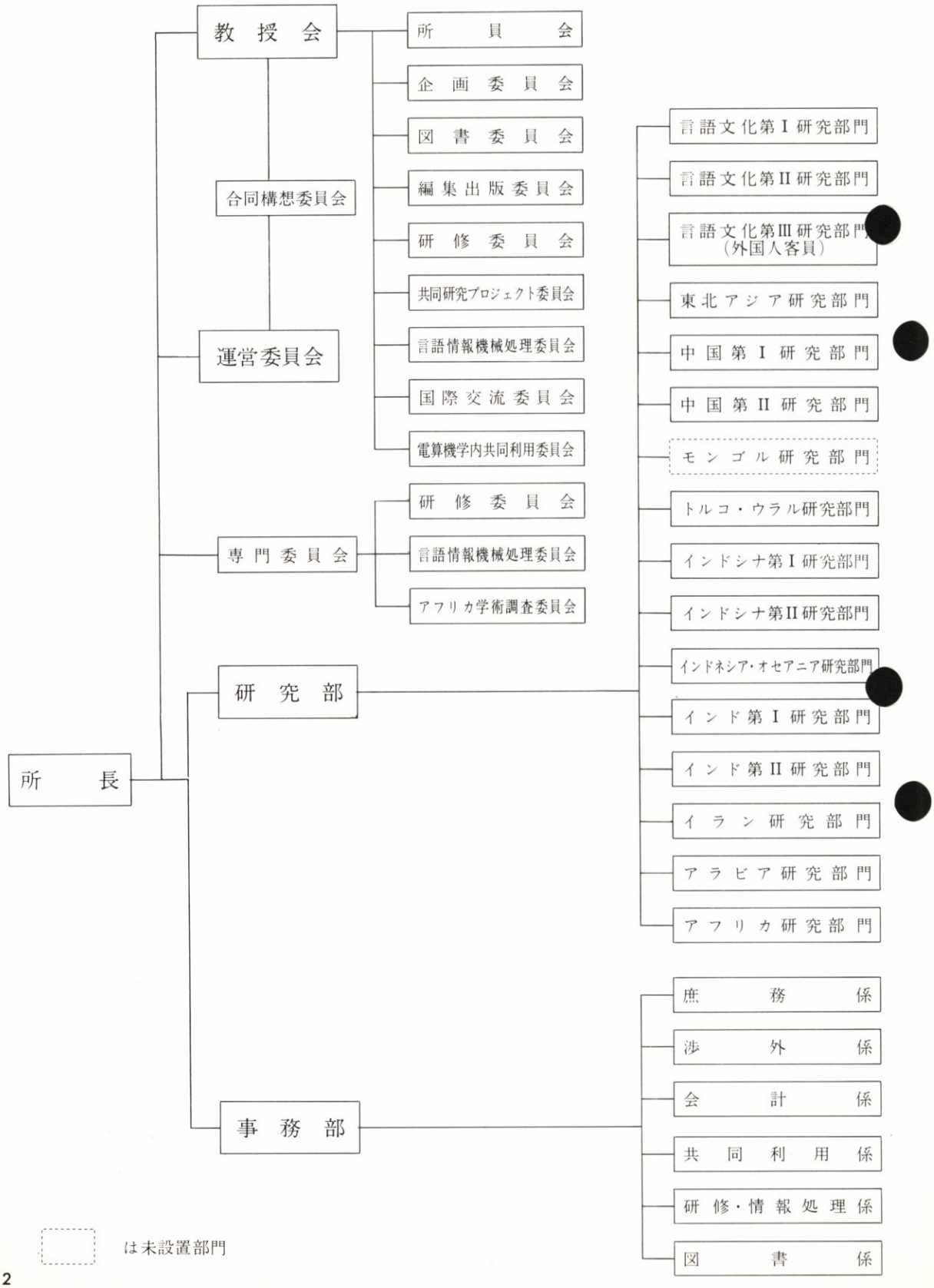
＊　　＊　　＊

共同利用研究所は，あらゆる種類の研究機関に所属する専門の研究者の便宜をはかるために設備や資料を提供し，相互の接触や交換の機会をつくり，それによって研究の発展・進歩を促すことを目的としています。

戦後日本の復興が進むとともに，その運命がアジア・アフリカ諸国と深くかかわりあっていることが認識されはじめました。このような背景のもとに1961年に学術会議がアジア・アフリカ言語文化研究所を設立するよう勧告しました。その後，各方面の理解と協力を得て，1964年4月1日に，東京外国語大学の附置の共同利用研究所として本研究所が設立されることになりました。以来，整備拡充が進み，今日では15部門の研究所に成長していますが，今後さらに1部門の増設が予定されています。



組　　織


所　長
教授会
合同構想委員会
運営委員会
所員会
企画委員会
図書委員会
編集出版委員会
研修委員会
共同研究プロジェクト委員会
言語情報機械処理委員会
国際交流委員会
電算機学内共同利用委員会
専門委員会
研修委員会
言語情報機械処理委員会
アフリカ学術調査委員会
研究部
言語文化第I研究部門
言語文化第II研究部門
言語文化第III研究部門（外国人客員）
東北アジア研究部門
中国第I研究部門
中国第II研究部門
モンゴル研究部門
トルコ・ウラル研究部門
インドシナ第I研究部門
インドシナ第II研究部門
インドネシア・オセアニア研究部門
インド第I研究部門
インド第II研究部門
イラン研究部門
アラビア研究部門
アフリカ研究部門
事務部
庶務係
渉外係
会計係
共同利用係
研修・情報処理係
図書係

は未設置部門

運営委員会

研究所の日常の業務の運営は，教授・助教授で組織する教授会において行われますが，共同利用研究所としての公開性を保つため，これとは別に運営委員会が置かれ，研究所の運営の基本方針などの重要な事項について，所長の諮問を受けます。運営委員には研究所の教授・助教授，および所外の学識経験者など，25名以内が委嘱されます。第8期(1979.2～1981.1）の運営委員は以下の通りです。

荒　松雄	東京大学教授	中根千枝	東京大学教授
石川栄吉	東京都立大学教授	西田龍雄	京都大学教授
井上和子	国際基督教大学教授	伴　康哉	大阪外国語大学教授
伊地智善継	大阪外国語大学学長	坂野正高	国際基督教大学教授
梅田博之	所員	藤枝　晃	京都大学名誉教授
岡田英弘	所員	松山　納	東京外国語大学教授
小沢重男	東京外国語大学教授	三根谷　徹	東京大学教授
小泉文夫	東京芸術大学教授	護　雅夫	東京大学教授
小堀　巖	東京大学助教授	八木健三	北星学園大学教授
柴田　武	埼玉大学教授	山田信夫	大阪大学教授
祖父江孝男	国立民族学博物館教授	山本　登	慶応義塾大学名誉教授
田町常夫	九州大学教授	渡部忠世	京都大学教授
富川盛道	所員		

専門委員会

また，所長の諮問に応えて，研究所の共同研究に関する専門的事項を審議する専門委員会が三つあり，それぞれ所外の学識経験者のうちから委嘱されます。1979年度の委員は以下の通りです。

研修委員会

相浦杲(大阪外国語大学教授)，池上二良(北海道大学教授)，大東百合子(津田塾大学教授)，小沢重男，五島忠久(帝塚山大学教授)，柴田武，柴田紀男(天理大学助教授)，中根千枝，西田龍雄，半田一郎(東京外国語大学教授)，伴康哉，松山納，三根谷徹

言語情報機械処理委員会

植村俊亮(工業技術院電子技術総合研究所主任研究官)，田町常夫，中山和彦(筑波大学教授)，長尾真(京都大学教授)，西村恕彦(東京農工大学教授)，淵一博（工業技術院電子技術総合研究所研究室長）

アフリカ学術調査委員会

石川栄吉，泉井久之助(京都産業大学教授)，今西錦司(京都大学名誉教授)，小堀巖，江実（岡山大学名誉教授)，祖父江孝男，中根千枝，山本達郎（国際基督教大学教授)，和崎洋一（富山大学教授)，渡辺光

研　究　活　動

共同研究プロジェクト

共同利用研究所での研究は，所員が個人研究テーマを持って研究を行なうとともに，所外の研究者と協力することになっています。そのために共同研究員の制度があり，共同研究プロジェクトを組織し，研究を進めています。1979年度のプロジェクトと共同研究員は以下の通りです。なおカッコ内は研究代表者です。

言語研修（北村　甫）

赤木　攻（大阪外大）
伊東利勝（日本学術振興会・奨励研究員）
大野　徹（大阪外大）
カーンチャナー・プラソプネート（京都大・研修員）
清水紀佳（ウィーン大）
ソムチャーイ・ポーンティラモンコン（大阪大・研究生）
田辺寿夫（ＮＨＫ国際局）
千野栄一（東京外大）
土橋泰子（ＮＨＫ国際局）
冨田竹二郎（大阪外大）
西江雅之（東京外大）
モンコン・チャンバーン（大阪外大）
吉川利治（大阪外大）

辞典編纂プロジェクト（橋本萬太郎）

雨堤千枝子（大阪外大）
石沢良昭（鹿児島大）
伊東照司（東京外大）
糸賀　滋（アジア経済研究所）
鵜殿倫次（東京外大）
太田　斎（都立大・大学院生）
落合守和（都立大）
辛島　昇（東京大）
川本栄三郎（岩手大）
川本邦衛（慶応大）
神田信夫（明治大）
日下恒夫（関西大）
慶谷寿信（都立大）
坂本比奈子（東京外大）
佐藤　進（富山大）
杉村博文（大阪外大）
鈴木陽一（松山商大）
高橋　保（大阪外大）
チンタナー・保川（東京外大）
戸川芳郎（東京大）
中川正之（広島大）
長尾光之（福島大）
新田春夫（東京大）
ネアック・ソック・チョムラン
平井勝利（名古屋大）
平田昌司（京都大・大学院生）
福田権一（中京大）
古屋昭弘（都立大・大学院生）
星　実千代（東京外大）
本名信行（金城学院大）
マイケル・シェラード（同志社大）
増野　仁（横浜市立大）
松尾良樹（同志社大）
松村　潤（日本大）
松村文芳（鹿児島経済大）
松本　昭（広島大）
守屋宏則（東京外大）
吉田　忠（東北大）
藍　清漢（立正大）

言語処理研究（松下周二）

上田博人（東京外大）
及川昭文（筑波大）
沢村正信（神戸商大）
清水克正（名古屋学院大）
杉田繁治（国立民族学博物館）
滝本　忠（日本大）
中島　久（青年海外協力隊）
堀口秀嗣（筑波大）
森口恒一（防衛大学校）

アジア・アフリカにおけるイスラム化と近代化に関する調査研究（三木　亘）

池田　修（大阪外大）
片倉もとこ（津田塾大）
可児弘明（慶応大）
加納弘勝（アジア経済研究所）
後藤　明（山形大）
後藤　晃（東京大）
坂本　勉（慶応大）
佐藤次高（お茶の水女子大）
谷　泰（京都大）

柘植洋一（東京大）　平戸幹夫（拓殖大）　宮本常一（日本観光文化研究所）
冨岡倍雄（神奈川大）　福井勝義（国立民族学博物館）　山形孝夫（宮城学院女子大）
奴田原睦明（東京外大）　本多義昭（京都大）　山田　稔（東京外大）
原　隆一（東京外大AA研・研究生）　前嶋信次（慶応大・名誉教授）　渡辺金一（一橋大）

アフリカ学術調査（富川盛道）

江口一久（国立民族学博物館）　端　信行（国立民族学博物館）　和崎春日（東京外大AA研・研究生）
大森元吉（国際基督教大学）　松園万亀雄（横浜国大）　和田正平（国立民族学博物館）
小川　了（国立民族学博物館）　宮治美江子（青山学院大）

南アジアの大河流域における農村社会の研究（中村平次）

石井米雄（京都大）　辛島　昇（東京大）　高橋孝信（東京大・大学院生）
家永泰光（熱帯農業研究センター）　桐生　稔（アジア経済研究所）　谷口晋吉（一橋大）
臼田雅之（拓殖大）　荻口善美（駒沢大）　柳沢　悠（横浜市大）
長田満江（アジア経済研究所）　佐藤　宏（アジア経済研究所）
上條安規子（一橋大）　重松伸司（名古屋大）

ヒマラヤ・チベットの生態・言語・文化に関する総合研究（飯島　茂）

立川武蔵（名古屋大）　西田龍雄（京都大）　安野早己（京都大・大学院生）
西　義郎（鹿児島大）　星　実千代（東京外大）

アジア・アフリカ諸言語についての文法研究（上岡弘二）

小田真弘（中京大）　田村すず子（早稲田大）　原　誠（東京外大）
大河内康憲（大阪外大）　鳥羽季義（国際言語研究協会）　溝上富夫（大阪外大）
カリヤン・ダスグプタ（法政大）　内記良一（東京外大）　三谷恭之（京都大）
金　東俊（拓殖大）　中島　久（青年海外協力隊）　村崎恭子（東京外大）
坂田貞二（拓殖大）　長　弘毅（アジア・アフリカ語学院）　山田幸宏（高知大）
崎山　理（広島大）　縄田鉄男（熊本大）　渡辺吉鎔（慶応大）
杉田　洋（東京学芸大）　早田輝洋（九州大）

日本の言語文化比較研究資料の充実（岡田英弘）

なお、1978年度より上記プロジェクトとは一応別に、当研究所において一定期間研究を行なう共同研究員を公募することになり、本年度は次の諸氏が委嘱されています。

信森廣光（福山市立女子短大）　福島邦夫（慶応大・大学院生）　宮脇淳子（大阪大・大学院生）

研 究 生

また研究生の制度があり，大学卒業かそれと同等以上の学力のある者が研究所で研究に従事することを希望するときは，研究生として入所を許可することがあります。研究生は入所料と研究料を納付し，指定の教官の指導を受けます。

言語情報機械処理

現代の電子工学の技術と数理情報の理論を高度に活用して，アジア・アフリカの諸言語の語料を大量に機械処理し，それぞれの言語の音韻論的，辞学的，統辞論的分析はもちろんのこと歴史学的，民族学的，社会学的研究のような多目的な用途に供せられるデータ・ベースの作製をはかっています。当研究所としては，最も重要な事業の一つであるアジア・アフリカの諸言語の辞典や文典の編纂に基礎資料を提供して，この方面におけるわが国の立ち後れを克服し，またアジア・アフリカ諸国との多面的，多角的交流という社会的要請にこたえようとしているわけですが，同時にこれは全国の研究者の共同利用にも供されます。この目的のために，一方で各言語の語料に一定の音韻論的，統辞論的，意味論的，辞学的情報を詳定しておき，他方ではこれらの情報を実際の研究に使いやすいようにプリント・アウトするために，トライコンやクゥイックのようなプログラムが開発され，活用されています。アラビア語，中国語，朝鮮語，クメール語，スワヒリ語，タミル語，チベット語などのデータが蓄積されつつあります。

単語の用例検索例（タイ語）

キ-ワ-ド = เอา

THAAMUA36421　เอา·หมาก·พลู·พับ·ขยุก·ๆ·ใส่·ครก·แล้ว·ตำ·เอา·ตำ·***

THAAMUA17504　ตราว·นี้·รู้·จัก·แล้ว·ว่า·ตัว·ผู้·ตัว·เมีย·เป็น·อย่าง·ไร　ไม่·หอม·ไม่·***

THAAMUA12806　ส่วน·ผู้·ชาย·นั้น·นุ่ง·กาง·เกง　เสื้อ·ก็·มี·กระ·เป๋า·หยิบ·ใส่·ๆ·สบาย　จะ·ลุก·จะ·คลาน·ยง·โย่·ยัง·ไง·ไม่·ต้อง·เป็น·ห่วง　ผู้·หญิง·ต้อง·คลาน·***

THAAMUA09701　พลู·ชาย·ปลีก·กัน·เช็น·"·เรียง·"　เรียง·หนึ่ง·มี·๒๐·ใบ·ซ้อน·เรียง·กัน·ให้·ก้าน·เรียง·กัน·เป็น·แถว·ใช้·นับ·ก้าน·***

THAAMUA33907　เจ็ก·ก็·ไม่·ยอม·***　จะ·เอา·๓·สตางค์·ให้·ได้

THAAMUA04701　แต่·บาง·ที·คุณ·อา·ก็·คุย·เรื่อง·ถูก·ครู·ทำ·โทษ·ที่·โรง·เรียน　และ·เสียง·คุณ·อา·ชัก·จะ·ดัง·ขึ้น·เรื่อย·ๆ·จึง·ถูก·คุณ·ปู่·ดุ·***　ทำ·ให้·หลาน·ๆ·ได้·แต่·ยิ้ม·และ·มอง·หน้า·กัน

THAAMUA08712　เมื่อ·เวลา·จะ·กิน·กุ้ง　ผู้·ใหญ่·มัก·บอก·ว่า　"·ระวัง·นะ·กิน·หัว·กุ้ง　จะ·ถูก·เรือ·สำ·เภา·ตำ·***　เพราะ·กุ้ง·มัน·กลืน·เอา·เรือ·สำ·เภา·ไป·ไว้·ที่·หัว·"

THAAMUA07605　แต่·คุณ·ยาย·ไม่·***　เพราะ·ไม่·เห็น·คุณ·ภาพ·ของ·ต้น·บอ·เลย　ลูก·ก็·กิน·ไม่·ได้　สุก·แล้ว·ก็·เหม็น·จะ·ตาย

言　語　研　修

アジア・アフリカの言語の習得のための教育訓練は，わが国では開発がおくれていた分野ですが，その技術の開発のために，1967年からほぼ毎夏，実験的に，朝鮮語，ベンガル語，現代ヘブライ語，アムハラ語，スワヒリ語，ビルマ語，福建語，チベット語の研修を，それぞれ一言語か二言語ずつ実施しました。1974年からは本格的に行なうことになり，当研究所員を中心にその言語を母語とする人，及び日本人研究者の協力をえて，東京(二言語)と大阪(一言語)で，下記のとおり実施してきました。

1974年度　朝鮮語，チベット語(東京)

1975年度　カンボジア語，ベンガル語(東京)

1976年度　ペルシア語，スワヒリ語(東京)　ビルマ語(大阪)

1977年度　広東語，マラーティー語(東京)　モンゴル語(大阪)

1978年度　タイ語，トルコ語(東京)　ペルシア語(大阪)

1979年度　ハウサ語，ビルマ語(東京)　タイ語(大阪)

また，1980年には東京でネパール語とモンゴル語，大阪でベトナム語の研修が行なわれる予定です。全国から公募された各言語約10名の研修生は検定料，入所料，受講料を納付し，初級コース 226時間の研修を受け，全課程を終えた人には修了証書が授与されます。

海外学術調査

本研究所は，その性格上，アジア・アフリカの現地調査を行なうことが重要な機能のひとつとなっています。これまでに当研究所の所員によって組織された海外学術調査は以下の通りです。

（1）アフリカ部族社会の比較調査　1969年～1977年

（2）ヨーロッパ東南部農村調査　1970年

（3）東南アジア・ナショナリズムの形成過程における地域社会の変動　1972年

（4）イスラム圏社会・文化変容の比較調査　1974年～

（5）中国･インド文明接触地帯における自然，生態と文化に関する調査1975年～1976年

（6）南アジア河川流域米作地帯の農村社会の研究　1979年～

モーターが入ったお蔭で，1回3時間半もかかった菜園での水汲みの重労働はもはやない。でも炊事の為の水汲みはまだ女の人たちには欠かせない日課だ。黒い長衣(taməlhaft)に銅の水壺(abuqqal)を背負って，村の共同井戸から三々五々帰って来る女の人の微笑。
（モロッコ，アンティアトラス山脈のベルベルの一山村にて。
1978年　中野暁雄）

助手等の現地投入

アジア・アフリカの言語を自由に話し，読み，書くことができ，かつ，生活を通じてその文化を吸収した研究者を養成するために，本研究所は助手等の若い研究者を，それぞれ2年の期間，アジア・アフリカの諸国に送っています。

この計画は1967年から実施され，現在までに合計14名がエチオピア，タンザニア，ナイジェリア，エジプト・アラブ，インド，モロッコ，香港，ケニア，ボツワナ，ザンビア，ザイール，ビルマ，ネパール，イラン，トルコ等々の諸国に派遣され，そのうち2名は目下現地で研修中です。

働くビルマの女性二題

古都パガン(Pagan)の南郊ミンカバー村は，漆塗り(yùnde)の生産地として有名である。家内工業の漆器工場では，娘たちがフィンガーボウル，たばこ入れ，お盆，壁掛けなどに伝統的な絵画や模様を描いている。

マライ半島に延びたテナセリム地方の町メルギー(Mergui)の海岸を訪れると，異様なにおいが鼻をつく。ここでは，ビルマ料理に欠かせないガピ(ŋəpí)が生産されている。働き者のビルマ女性は，臼で蝦や魚をつぶす作業に精を出す。これを醗酵させると，ガピと呼ばれる味噌のような調味料ができる。　(藪　司郎)

外国人研究員

研究所は，その共同利用研究活動の一環として，外国のアジア・アフリカの言語文化研究の専門家を外国人研究員として受け入れ，研究上の便宜を供与します。現在まで受け入れた外国人研究員は以下の通りです。

Gordon T. Bowles
　アメリカ　人類学専攻　1967年10月6日～1968年9月15日

Muhammad Anis
　エジプト　近代史専攻　1968年10月2日～12月25日

Raouf Abbas Hamed
　エジプト　近代史専攻　1973年4月1日～9月19日

Yellava Subbarayalu
　インド　南インド中世史専攻　1973年10月1日～1975年10月31日

Fe Aldave-Yap
　フィリピン　フィリピン国語学専攻　1975年9月20日～12月21日

金 完 鎮
　大韓民国　韓国語学専攻　1975年8月20日～1976年7月31日

Curtis D. McFarland
　アメリカ　言語学専攻　1976年2月20日～1977年2月19日

'Abd al-Raḥîm 'Abd al-Raḥmân 'Abd al-Raḥîm
　エジプト　中東近代経済史・アラビア語学専攻　1976年6月6日～10月4日

Salim Abdulla Wazir
　タンザニア　教育学専攻　1976年6月4日～10月11日

Bhakti Prasad Mallik
　インド　言語学専攻　1976年7月13日～12月20日

Karthigesu Indrapala
　スリランカ　歴史学専攻　1976年11月1日～1977年3月31日

俞 昌 均
　大韓民国　韓国語学専攻　1977年4月1日～1978年1月31日

Søren C. Egerod
　デンマーク　東洋言語学，古典学専攻　1977年9月1日～1978年5月31日

Bozkurt Güvenç
　トルコ　社会人類学専攻　1978年5月17日～10月31日

Thubten Jigme Norbu
　アメリカ　チベット学専攻　1978年6月27日～1979年3月31日

André-Georges Haudricourt
　フランス　言語学，植物学，民族学専攻　1978年10月2日～10月31日

Maria Lourdes S. Bautista
　フィリピン　言語学専攻　1978年10月23日～1979年5月12日

William S-Y. Wang
　アメリカ　言語学，音声学，神経言語学専攻　1979年2月15日～7月14日

Alhaji Faruk Gezawa
　ナイジェリア　ハウサ語学専攻　1979年4月12日～1980年1月11日

Shyamsunder Joshi
　インド　ヒンディー文学専攻　1979年5月26日～8月25日

Dor Bahadur Bista
　ネパール　社会人類学専攻　1979年5月30日～6月20日

Jean-Baptiste Bunkungu
　オートボルタ　モシ語学専攻　1979年6月1日～9月30日

施　　設

図　書　室

アジア・アフリカ研究に必要な図書および図書利用のための設備は，共同利用研究機関として重要な要素です。研究所開設以来図書資料は徐々に増加していますが，その充実については今後とも多大な努力を要します。蔵書の中にはアジア・アフリカ地域の国語教育資料，雑誌（約400種），新聞（約60種），世界各国語の聖書，などが含まれています。図書の他に，マイクロ資料，各種の語学レコードおよび録音テープなどもあり，また利用者の便宜を考えてマイクロリーダーとリーダー・プリンターを備えています。

音声学実験室

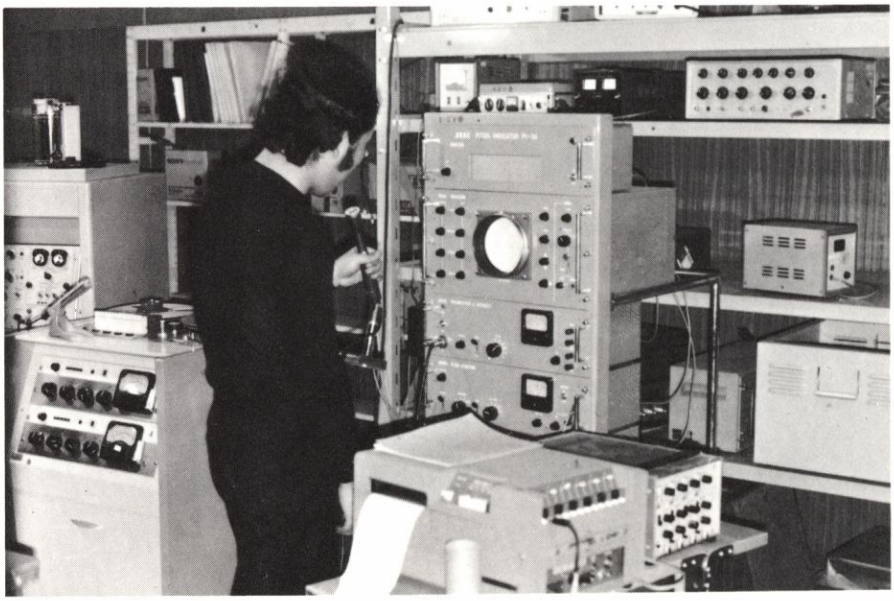
「ヨルバ語のトーンなんですが，基本周波数の動きは？」

「広東語の声調の上がり下がりを目で見て確かめたいんですが…」

「フラ語ってどんなことばですか？　実際に録音したものがありますか？」

「言語研修に使う教材を，良い条件で録音したいんだけど……」

こんな例は，音声学実験室の活動のほんの一部分にすぎません。サウンド・スペクトログラフやピッチ・インディケーターをはじめとした音声分析用機器が，フィールド調査で収集された音声資料の処理にあたっています。また，めずらしい言語や，貴重な民話・民族音楽などのテープが複写され，ビデオ録画なども利用しながら研究分析を行なっています。



電　算　機　室

当研究所では，1978年1月から，HITAC M－150システムを導入しました。内部メモリは512KB，ディスク装置は4スピンドルで合計800MB，磁気テープは2デッキあります。入力にはパンチカード，マークカード，紙テープが使えます。出力のためにはラインプリンタの他に漢字プリンタがありますが，これを使用して，大きさも形も様々なＡＡ諸言語の文字を印刷できるようなソフトウエアが開発されています。

このほかのソフトウエアとしては単語の用例検索システムが準備されています。これはＡＡ諸言語をローマ字や数字におきかえることをせずに，原字のままでパンチ，入力し，データベース化するもので，必要に応じて何時でも任意の単語（列）の用例を検索し，それぞれの固有の文字で印刷することができます。このシステムは，文法研究や辞典編纂の資料作成ばかりでなく，史料や調査記録の索引を作ることもでき，言語学ばかりでなく，歴史学や文化人類学の研究にも活用できます。

またグラフィックディスプレーもあり，ＡＡ諸言語の研修の自動化等の開発研究も行なわれています。

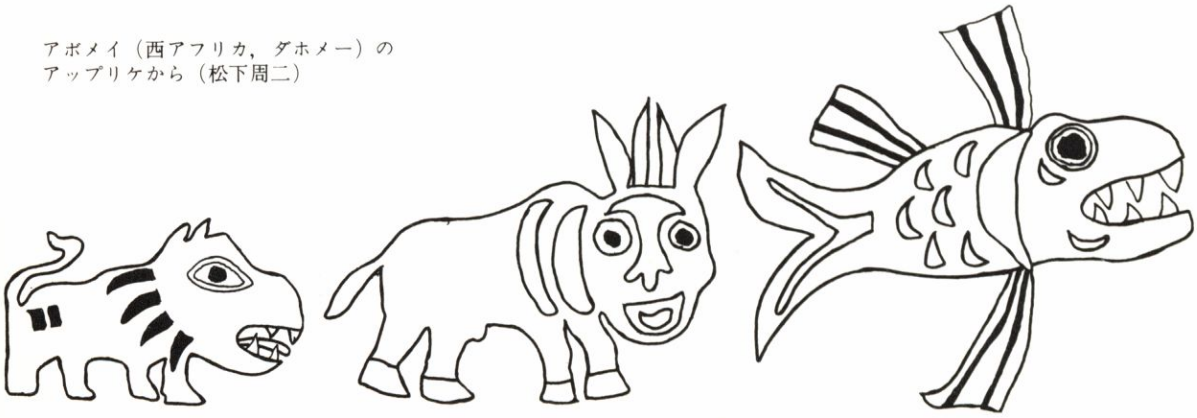
職　　員

所長（併）　北　村　　甫

研　究　部　（五十音順）

教　授　飯　島　　茂：アジアの国民形成
教　授　石　垣　幸　雄：文論
教　授　梅　田　博　之：朝鮮語
教　授　大　江　孝　男：朝鮮語
教　授　岡　田　英　弘：東アジア史
教　授　北　村　　甫：チベット語
教　授　富　川　盛　道：アフリカの社会と文化
教　授　中　村　平　次：インド現代史
教　授　奈　良　　毅：インド・アーリア諸語の研究
教　授　橋　本　萬太郎：シナ・チベット諸語
教　授　山　口　昌　男：文化記号論
助教授　上　岡　弘　二：イラン語
助教授　川　田　順　造：西アフリカ社会
助教授　坂　本　恭　章：アウストロアジア諸語
助教授　土　田　　滋：アウストロネシア諸語
助教授　中　野　暁　雄：セム・ハム諸語
助教授　永　田　雄　三：トルコ近代史
助教授　原　　忠　彦：イスラム教徒社会
助教授　日　野　舜　也：アフリカ都市社会の比較研究
助教授　三　木　　亘：イスラム近代史
助教授　守　野　庸　雄：日本語・スワヒリ語対照研究
助教授　家　島　彦　一：イスラム中世史
助教授　湯　川　恭　敏：理論言語学，バントゥ諸語
助　手　石　井　　溥：南アジアの人類学
助　手　加賀谷　良　平：音響音声学
助　手　清　水　宏　祐：西アジア史
助　手　新　谷　忠　彦：言語哲学
助　手　高知尾　　仁：アフリカの象徴論
助　手　辻　　伸　久：中国語
助　手　内　藤　雅　雄：インド近代史
助　手　中　嶋　幹　起：中国語
助　手　羽　田　亨　一：イラン史
助　手　松　下　周　二：アフリカの言語
助　手　水　島　　司：南インド近現代史
助　手　森　　幹　男：インドシナ比較文化史
助　手　藪　　司　郎：チベット・ビルマ諸語
助　手　山　本　勇　次：東南アジアの文化人類学

アボメイ（西アフリカ，ダホメー）の
アップリケから（松下周二）



事務部

事務長 文部事務官	坂元　治
事務長補佐 文部事務官	宮森　てる子

庶務係

係長 文部事務官	戸田　孝司
文部事務官	井上　由美子
文部事務官	松本　省三
文部事務官	福井　光雄
文部事務官 （タイピスト）	依田　かつ子
文部技官 （自動車運転手）	塙　和雄

渉外係

係長 文部事務官	隅田　浩
文部事務官	松岡　環
文部事務官	佐久間　敬喜

会計係

係長 文部事務官	安田　隆
文部事務官	佐藤　秀規
文部事務官	田川　恵二
文部事務官	成瀬　智
文部事務官	田村　猛
文部技官	富澤　貞夫
文部事務官 （守衛）	金子　鍵蔵
用務員	植田　カツエ

共同利用係

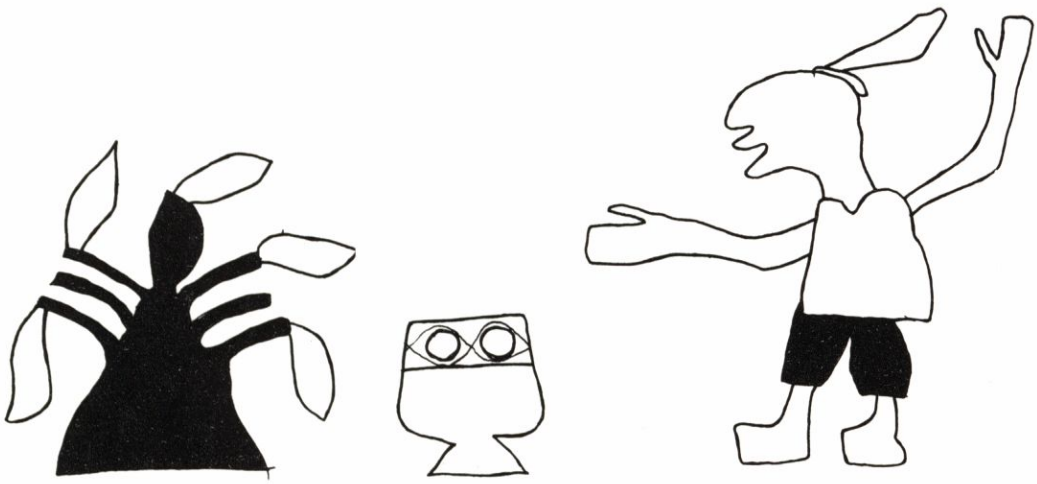
係長 文部事務官	遠藤　吉則
文部事務官	金井　京子
文部事務官	津田　貞子
文部事務官	大村　和子
文部事務官	乙訓　寛雅

研修・情報処理係

係長 文部事務官	浅見　義則
文部事務官	岡田　ほなみ
文部事務官	中嶋　弘子
文部技官	今井　健二

図書係

係長 文部事務官	石橋　徳三郎
図書主任 文部事務官	石川　恵子
文部事務官	中川　陽子
文部事務官	古川園　天津子
文部事務官	鈴木　喜久子
文部事務官	須郷　知子



出 版 物 一 覧

アジア・アフリカ言語文化研究 *Journal of Asian and African Studies,* Nos. 1(1968), 2(1969), 3(1970), 4(1971), 5(1972), 6(1973), 7(1974), 8(1974), 9(1974), 10(1975), 11(1976), 12(1976), 13(1977), 14(1977), 15(1978), 16(1978), 17(1979).

アジア・アフリカ言語文化研究所　通信, Nos. 1～36. (1966～79).

アジア・アフリカ言語文化叢書

1. ピア・アヌマーン・ラーチャトン著・河部利夫訳註, タイ農民の生活, 1967.
2. 家島彦一訳註, イブン・ファドラーンのヴォルガ・ブルガール旅行記, 1969.
3. MATSUSHITA, S., *An Outline of Gwandara Phonemics and Gwandara-English Vocabulary,* 1972.
4. NAKANO, A., *Conversational Texts in Eastern Neo-Aramaic (Gzira Dialect),* 1973.
5. TSUCHIDA, S., *Reconstruction of Proto-Tsouic Phonology,* 1976.
6. NAGATA, Y., *Muhsin-Zâde Mehmed Paşa ve Âyânlık Müessesesi.* 1976.
7. YAJMA. H., *A Chronicle of the Rasūlid Dynasty of Yemen,* 1976.
8. MCFARLAND, Curtis D., *A Provisional Classification of Tagalog Verbs,* 1976.
9. MCFARLAND, Curtis D., *Northern Philippine Linguistic Geography,* 1977.
10. HASHIMOTO, M.J., *Phonology of Ancient Chinese.* Vol. 1, 1978.
11. HASHIMOTO, M.J., *Phonology of Ancient Chinese.* Vol. 2, 1979.
12. KAWADA, J., *Genèse et évolution du système politique des Mosi méridionaux (Haute Volta),* 1979.

アジア・アフリカ基礎語彙集

1. 山本謙吾, 満州語口語基礎語彙集, 1969.
2. 梅田博之, 現代朝鮮語基礎語彙集, 1971.
3. 橋本萬太郎, 客家語基礎語彙集, 1972.
4. 和田正平, イラク語基礎語彙集, 1973.
5. 石垣幸雄, エチオピア比較語句集, 1974.
6. 守野庸雄, スワヒリ語基礎語彙用例集, 1975.
7. 坂本恭章, モン語語彙集, 1976.
8. 中嶋幹起, 闘語東山島方言基礎語彙集, 1977.
9. 奈良　毅, *Avahaṭṭha and Comparative Vocabulary of New Indo-Aryan Languages,* 1979.
10. 中嶋幹起, 福建漢語方言基礎語彙集, 1979.

共 同 研 究 報 告

1. アジア・アフリカ諸国における国語教育資料の調査研究――中間報告, 1966.
   アジア・アフリカ諸国――国語教育資料目録, 1967.
2. アジア・アフリカ言語調査票, 上(1966), 下(1967).
3. 「イスラム化」に関する共同研究報告, Nos. 1(1968), 2(1969), 3(1970), 4(1971), 5(1972), 6(1973).
4. 現代インド・パキスタン文学共同研究報告, Nos. 1(1970), 2(1971), 3(1972).
5. アジア・アフリカにおける宗教運動共同研究報告, Nos. 1(1972), 2(1972), 3(1973).
6. アジア・アフリカ文法研究, Nos. 1(1972), 2(1973), 3(1974), 4(1975), 5(1976), 6(1977), 7(1978).
7. *Asian and African Grammatical Manual*(アジア・アフリカ文法便覧), 1972～:

No. 11. Korean(梅田博之), 1973.
- 11z. Ainu(村崎恭子), 1978.
- 12b. Fukienese(中嶋幹起), 1976.
- 12z. Tibetan(北村　甫), 1977.
- 13b. Marathi(内藤雅雄), 1976.
- 13c. Bengali(奈良　毅), 1979.
- 13d. Khaling(鳥羽季義), 1979.
- 13y. Malayalam(伊藤正二), 1978.
- 14a. Cambodian(坂本恭章), 1974.
- 14b. Burmese(藪　司郎), 1974.
- 14c. Thai(森　幹男), 1975.
- 15b. Philippine(山田幸宏, 土田　滋), 1975.
- 16b. Samoan(小田真弘), 1977.
- 17. Persian(上岡弘二), 1976.
- 20. African(石垣幸雄), 1975.
- 21. Swahili(守野庸雄), 1976.
- 22a. Cushitic(石垣幸雄), 1972.
- 22b. Ethiopic(石垣幸雄), 1978.
- 23. Hausa(松下周二), 1974.
- 26. Fulfulde(江口一久), 1974.
- 33. Romance & Greek(石垣幸雄), 1973.
- 33y. Basque(石垣幸雄), 1979.
- 33z. Maltese(石垣幸雄), 1977.
- 36. Uralic *etc.*(石垣幸雄), 1976.

8．アフリカ部族社会の比較研究：1．アフリカ部族社会の特質をめぐって(1971)，2．アフリカ社会の地域性(1973)．
9．トルコ民族とイスラムに関する共同研究報告，1(1974)．
10．アジア・アフリカ語の計数研究，1(1975)，2(1975)，3(1976)，4（鄭　嘉彦：老乞大諺解単字索引，1976)，5(坂本恭章：カンボジア語小辞典，1976)，6(1976)，7(1977)，8(1978)，9(1978)，10(1979)，11(1979)
11．*Oceanic Studies,* No. 1(1976)．
12．インド・パキスタン分離独立の史的研究　資料集1(1976)，2(1977)．
13．南アジアの大河流域における農村社会の研究：南アジア農村社会の研究，1(1977)，2(1978)．
14．ヒマラヤ・チベットの生態・言語・文化に関する総合研究：YAK，1(1977)，2(1979)．

AFRICAN LANGUAGES AND ETHNOGRAPHY

1．EGUCHI, P. K., *Miscellany of Maroua Fulfulde (Northern Cameroun),* 1974.
2．MATSUSHITA, S., *A Comparative Vocabulary of Gwandara Dialects,* 1975.
3．MOHAMMADOU, E., *L' Histoire des Peuls Férôɓe du Diamaré: Maroua et Pétté,* 1976.
4．EGUCHI, P. K., (tr.), *Shi'r al-Ṭuba (Poem of Repentance),* 1976.
5．WADA, S., *Hadithi za Mapokeo ya Wairaqw (Iraqw folktales in Tanzania),* 1976.
6．NAKANO, A., *Dialogues in Moroccan Shilha (Dialects of Anti-Atlas and Ait-Warain),* 1976.
7．TANAKA, J., *A San Vocabulary of the Central Kalahari-G//ana and G/wi Dialects,* 1978.
8．MOHAMMADOU, E., *Les Royaumes Foulɓe du Plateau de L'Adamaoua au XIX siècle,* 1978.
9．MATSUSHITA, S., *In a Small Town on the Benue—Fula Texts from Gongola State, Northern Nigeria,* 1978.
10．HINO, S., *The Classified Vocabulary of the Mbum Laguage in Mbang Mboum—with Ethnographical Descriptions,* 1978.
11．EGUCHI, P. K., *Fulfulde Tales of North Cameroun I,* 1978.
12．MOHAMMADOU, E., *Catalogue des Archives Coloniales Allemands du Cameroun,* 1978.

STUDIA CULTURAE ISLAMICAE

1．NAKANO, A., *Basic Vocabulary in Standard Somali (I),* 1976.
2．MIKI, W., *Index of the Arab Herbalist's Materials,* 1976.
3．YAJIMA, H., *The Arab Dhow Trade in the Indian Ocean,* 1976.
4．NAGATA, Y., *Some Documents on the Big Farms (Çiftliks) of the Notables in Western Anatolia,* 1976.
5．MIYAJI, K., "*Kacem Ali*" — *Monographie d'un domaine autogéré de la plaine de Mitidja (Algérie),* 1976.
6．MIYAJI, M., *L'Emigration et le changement socio-culturel d'un village Kabyle (Algérie),* 1976.
7．MIKI, W. & Abd al-Rahim., *Village in Ottoman Egypt and Tokugawa Japan—A Comparative Study,* 1977.
8．MIKI, W., HONDA, G. & M. Salah Ahmed, *Herb Drugs and Herbalists in the Middle East.* 1979.
9．YAJIMA, H. & KAMIOKA, K., *The Inter-Regional Trade in the Western Part of the Indian Ocean—The Second Report on the Dhow Trade—,* 1979, [in Japanese].
10．KAMIOKA, K., & YAMADA, M., *Larestani Studies I. Lari Basic Vocabulary,* 1979.
11．NAGATA, Y., *Materials on the Bosnian Notables,* 1979.
12．SHIMIZU, K., *Bibliography on Saljuq Studies,* 1979.
13．HANEDA, K., *Tabrizi Vocabulary, an Azeri-Turkish Dialect in Iran,* 1979.

MONUMENTA SERINDICA

1．IIJIMA, S. (ed.), *Changing Aspects of Modern Nepal—Relating to the Ecology, Agriculture and Her People,* 1977.
2．HASHIMOTO, M. (compl), *The Newari Language—A Classified Lexicon of its Bhadgaon Dialect,* 1977.
3．KITAMURA, H. (ed)., *Glo Skad—A Material of a Tibetan Dialect in the Nepal Himalayas—,* 1977.

4. MATISOFF, J.A., *Mpi and Lolo-Burmese Microlinguistics,* 1978.
5. HOSHI, M. & Tondup Tsering, *Zangskar Vocabulary—A Tibetan Dialect Spoken in Kashmir,* 1978.
6. KITAMURA, H. & NISHIDA, T. & NISHI, Y., *Tibeto-Burman Studies I,* 1979.

言語研修テキスト

1. チベット語，北村甫ほか編，全5冊（1974）.
2. 朝鮮語，梅田博之ほか編，全3冊（1974）.
3. カンボジア語，坂本恭章ほか編，全5冊（1975）.
4. ベンガル語，奈良毅編，1冊（1975）.
5. ビルマ語，大野徹ほか編，全5冊（1976）.
6. ペルシア語，上岡弘二ほか編，全3冊（1976）.
7. スワヒリ語，守野庸雄ほか編，全2冊（1976）.
8. 広東語，中島幹起ほか編，全4冊（1977）.
9. マラーティー語，内藤雅雄ほか編，全3冊（1977）.
10. モンゴル語，荒井伸一ほか編，全4冊（1977）.
11. トルコ語，永田雄三ほか編，全3冊（1978）.
12. タイ語，坂本恭章ほか編，全2冊（1978）.
13. ペルシア語，勝藤猛ほか編，全3冊（1978）.

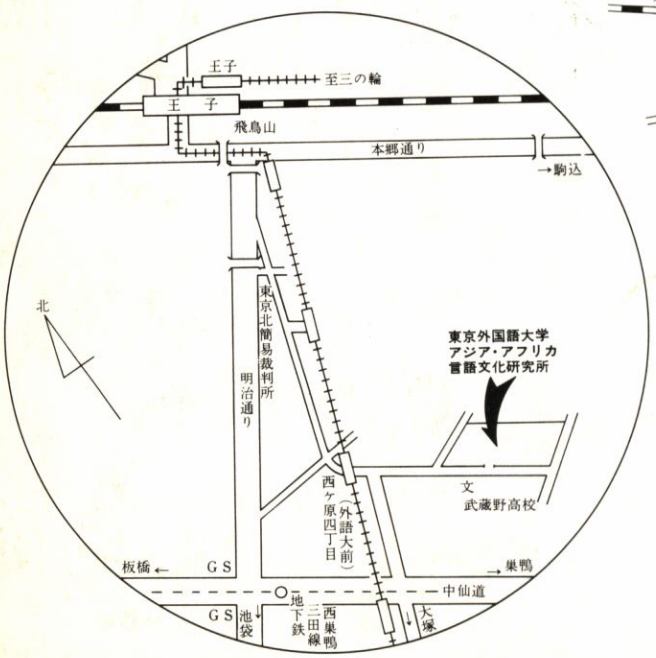
特定研究「言語」出版物

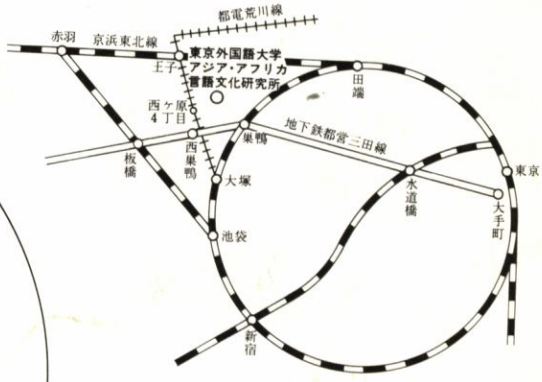
「文字と言語」研究資料

1. HASHIMOTO, M. J., *hP'ags-pa Chinese,* 1978.
2. 橋本萬太郎編，東干語文字の音表化（資料集），1978.
3. 橋本萬太郎編，ラテン化新文字（資料集），1978.
4. 川本邦衛，現代ベトナム語　漢語・「漢字語」語彙集（I），1979.
5. SIMON H. Schaank, *The Lu-Feng Dialect of Hakka,* 1979.

「AA諸言語と日本語の学習」資料

77－1. 梅田博之：基本動詞対照用例集　日本語—朝鮮語1，1978.
77－2. 大河内康憲：基本動詞対照用例集　日本語—中国語1，1978.
77－3. 坂本恭章：基本動詞対照用例集　日本語—タイ語1，1978.
78－1. 梅田博之：基本動詞対照用例集　日本語—朝鮮語2，1979.
78－2. 大河内康憲：基本動詞対照用例集　日本語—中国語2，1979.
78－5. 奈良毅：基本動詞対照用例集　日本語—ヒンディ語1，1979.
78－6. 内記良一：基本動詞対照用例集　日本語—アラビア語1，1979.
78－7. 守野庸雄：基本動詞対照用例集　日本語—スワヒリ語1，1979.
78－8. 助詞対照用例集1：「の」日本語—AA諸言語，1979





東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所

東京都北区西ケ原4丁目51番21号 〒114
TEL 03－917－6111
国電大塚又は王子下車・都電荒川線西ケ原4丁目
（外語大前）から徒歩約5分
地下鉄・都営三田線西巣鴨下車15分